

【研究例会 IN ハンガリー 発表】

日本語教科書に盛り込むジェンダー意識  
教科書作成の経験から

佐々木瑞枝

筆者はこれまで日本語教科書の執筆、監修などにあたってきた。日本語の教科書にどんな項目を盛り込むかは筆者や監修者の責任であり、その結果、学習者は教科書の項目を学ぶ中で必然的にジェンダー意識を築きあげていくと思われる。

本発表では、これまで執筆した教科書の中に盛り込んだ「ジェンダー項目」に関する考察を行う。今後の教科書作成について参考になればと考えている。

ここでは著書を 1.日本語・日本文化関連の教科書、2.日本語副教材、3.日本語問題集の3つに分類し、その中から数冊を取り上げて言及したい。

なお筆者には『日本語ジェンダー辞典』（東京堂）、『あいまい語辞典』などの辞典類および『外国語としての日本語』、『日本語を外から見る』、『女の日本語 男の日本語』などの日本語に言及した著書があるが、ここでは取り上げないものとする。

1. 日本語・日本文化関連の教科書（出版年代順）

- ① 『日本事情』（日本語・英語対訳版）単著 北星堂書店 1987年 233ページ  
日本事情の教科書として韓国語版・中国語版も出版された。
- ② 中国版 『日本世情』単著（中国語対訳・簡体字版）外国語教育与研究出版社（北京）1995年 331ページ  
台湾語版とは異なる簡体字版であり、現在も書店に山積みされ中国の大学で使われている。
- ③ 台湾版 『日本事情日語学習叢書Ⅱ』単著 中国語対訳版 致良出版社（台湾）1995年 286ページ  
日本語と英語の対訳版の英語の部分が中国語訳となっている。
- ④ 『日本社会再考』共著：門倉正美 北星堂書店 1991年 572ページ  
中上級用日本語テキスト。日本の社会について38項目のタイトル、英文翻訳、難しい漢字、同音異義語、フィールドワーク、グループディスカッション、グラフィディングなどさまざまなコミュニカティブ・アプローチの手法による問題文を載せている。
- ⑤ 『日本事情入門（英文訳版）』単著 アルク出版 1995年 100ページ  
外国人に日本を紹介するため、写真と英文翻訳つきである。
- ⑥ 『日本事情日語学習叢書Ⅱ』単著 中国語対訳版 致良出版社（台湾）1995年 286ページ、日本語と英語の対訳版の英語の部分が中国語訳となっている。
- ⑦ 『日本事情入門』単著（ハングル対訳版）1995年 100ページ  
アルクで出版された『日本事情入門』の韓国語版である。
- ⑧ 『会話の日本語』共著：門倉正美、ジャパントイムズ 1996年 192ページ  
初級テキストで習得した日本語の文型をいかに実際の会話場面で運用できるかを考

慮して作成した 日本語のテキストである。(韓国語版・中国語版がそれぞれの国で頒布されている)

- ⑨ 『会話の日本語ードリル&タスク』(共著 門倉正美) ジャパンタイムズ 1997年 197ページ

初級テキストで習得した日本語の文型をいかに実際の会話場面で運用できるかを考慮して作成した 日本語のテキストとに共に使用するドリルとタスクである(韓国語版・中国語版がそれぞれの国で頒布されている)。

- ⑩ 『日本語ことはじめ』単著 北星堂書店 1999年 117ページ

日本語の初級学習者に必要な文法事項、日本の文化について、英文の解説を入れた。海外で日本語を勉強したり、短期集中で日本語を学習するためのテキストである。

- ⑪ 『アカデミック ジャパニーズ』(共著) ジャパンタイムズ 2001年 127ページ

日本語の文法力、読解力などの受信型スキルを伸ばすだけではなく、学習者自身が考え、その場の状況を考えながらコミュニケーション・発表する「発信型スキル」を伸ばすことを目標としたテキストである。

- ⑫ 『新世紀文化日本語教程』(監修) 外語教学研究出版社(北京) 2005年

中国精華大学教授の依頼を受け、本文、会話文、語彙、文法解説、練習問題、日本文化、について、監修作業を行った。

- ⑬ 『改定新版 会話のにはんご』(共著) ジャパンタイムズ 2007年 本文 190ページ、スクリーン 39ページ

本書は「会話の日本語」(1996年)、「会話のにはんご、ドリル&タスク」(1997年)の2冊を改定し、「この課で学ぶこと」、CD、教師用指導書などを加えて新しく一冊にまとめたもの。例文やドリルを大幅に修正することで、さらに楽しいクラス活動が可能になったと思う。

- ⑭ 『自然な日本語 1 初級編』単著 台湾 大新書局出版社 2008年 118ページ

台湾における日本語教科書として出版した。

- ⑮ 『自然な日本語 2 中・上級編』単著 台湾 大新書局出版社 2008年 118ページ

教科書を執筆・監修する際には、「会話文の内容」「男女の言葉遣い」「イラストの扱い」など、ジェンダーを意識することなしには、作成できない。しかし、「ジェンダー」という項目を盛り込むことは、編集上難しい場合が多い。

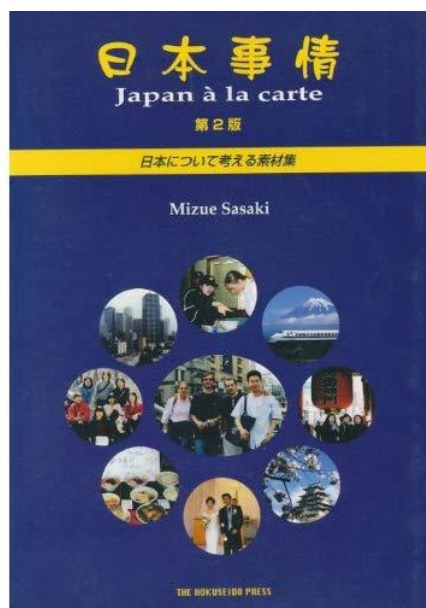
上記の教科書の中で、1987年出版の『日本事情』、1991年出版の『日本社会再考』、1999年出版の『日本語ことはじめ』、2001年出版の『アカデミック・ジャパニーズ』、2006年出版の『大学生のための日本語ライティング』、2007年出版の『改定新版 会話のにはんご』の中では、特に「ジェンダーに関するトピック」の項目をもうけている。

## 1.1 『日本事情』

この教科書を出版したのは以下の理由による。

1. 多くの大学で「日本語・日本事情」の指導が始まっていたが、留学生用の「日本事情」のテキストが世に出ていなかった。
2. 「日本事情」の指導項目については、指導担当者にまかされ、「日本の先端技術」「日本の民話」など、指導担当者の専門領域が論じられることが多かった。
3. 「日本事情とは何か」が論じられていた時期でもあり、筆者なりの「日本事情」をまとめてみ

たいと考えた。



©北星堂書店

本書のVI章は「日本人の社会と生活」の章であるが、その中の一つの項目として「男女雇用機会均等法」を取り上げている。英文対訳の本であるので、英語の Equal Opportunities for Women は中国版、台湾版、韓国版でもそれぞれの言語で翻訳されている、

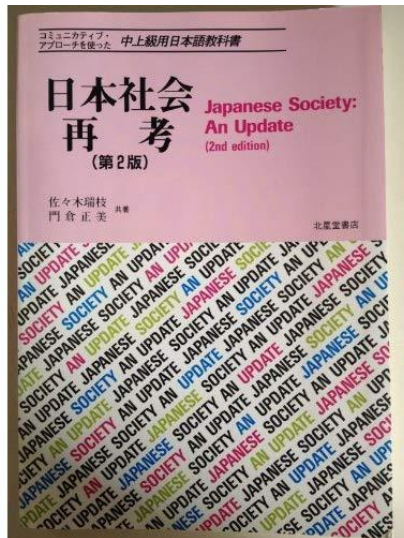
この章では 1986 年 4 月から実施された法律「男女雇用機会均等法」を紹介した上で、以下のような文章を掲載した。

「男は仕事、女は家庭という概念が日本の社会全体に広くいきわたっているため、法律ができたからといって急に女性の課長が多く出現するとは思えない。……女性が男性と肩を並べて仕事をしていくためには、まず私たちの意識から変えていかなければならない……。

『日本事情』が出版されてから 25 年以上の時が流れて、女性の社会進出が目立つようになったものの、いまだに家事育児をする男性が「イクメン」という言葉で表現されるほど稀なことであり、女性たちに家事・育児がまかされているというのが、21 世紀になっても続く日本社会の現状と言える。

## 1.2 『日本社会再考』

この教科書には「コミュニケーション・アプローチを使った中上級用教科書」というサブタイトルがついている。



©北星堂書店

門倉正美氏との共著で、執筆は分担したが、目次作成やタスクについては二人で話し合っ  
て決めた文字通りの「共著」である。

目次の中に「女性と差別」という項目を設け、次のようなことを学習者に考えさせるタスクを  
盛り込んでいる。

●内容質問

- 1.女性の性役割分担と言われるものを三つあげなさい。
- 2.職業を「腰掛」ととらえる、とはどういう意味ですか？
- 3.キャリア・ウーマンの意味は何ですか？

●ディベート

中学・高校で男子生徒も家庭科を必修とすべきかその必要はないかを二つに分かれて討  
議しなさい。(注：この本が出版された当時は男子は家庭科ではなく、技術を受講した。現  
在では男子も家庭科は必修となっている)

そのほかにも、長文で20代の未婚の女性、40代の主婦、50代の男性を登場させ、夫婦役割分  
担をどう変えていくかというテーマのロールプレーなどを載せている。留学生たちがこれらの文  
を読み、考え、タスクを行うことで、彼らの脳裏に刷り込まれている「ジェンダーバイアス」が  
少しでも変わっていくことを願って書いたものである。

## 2. 日本語の問題集にもジェンダー意識を盛り込めるか

これまで日本語能力試験対策や留学生試験対策の問題集を企画・監修・執筆してきた。筆者は、  
多くの場合、プロジェクトチーム内で監修しながら、目次立てや全体の構成を考えるという立場  
にあり、監修者の考え方で目次も変えられる、ジェンダーの視点からテキストを書く、監修する、  
という経験を重ねてきている。会話文や例文の工夫、とりあげるトピックにジェンダーの視点を  
生かす、などである。

- ① 『日本語パワーアップ総合問題集ーレベル A』(監修) ジャパンタイムズ 2000年 124 ペー  
ジ

留学生が総合的な日本語力をつけることを目的に作成した問題集である。日本語能力試験の1級に対応したレベルであり、特に論説文、説明文などを多くとりあげている。

- ② 『日本語パワーアップ総合問題集ーレベルB』(監修) ジャパンタイムズ 2000年 117ページ

日本語能力試験の2級に対応したレベルであり、特に大学での講義などを多くとりあげている。

- ③ 『日本語パワーアップ総合問題集ーレベルC』(監修) ジャパンタイムズ 2000年

日本語能力試験の3-4級に対応したレベルであり、特にコミュニケーション能力のレベルアップを考え、「絵から情報を得る」「予測して答える」などのタスクが盛り込まれている。

- ④ 「アカデミックジャパニーズ日本語表現ハンドブック シリーズ」(監修) アルク出版 2000年

中国語版(中国大連外国語大学)。下記の1~10のシリーズは、全て異なる著者グループのプロジェクトを編成して行なった。①『すぐわかる上級表現』107ページ ②『すぐに使える上級動詞』123ページ ③『予測して読む聴読解』136ページ ④『違いを覚える上級形容詞』84ページ ⑤『よく使うカタカナ語』117ページ ⑥『会話で覚える形式名詞』139ページ ⑦『日常会話で使う慣用表現』107ページ ⑧『表現を豊かにする副詞』120ページ ⑨『例文で学ぶ助動詞』107ページ ⑩『自然に使える文末表現』131ページ

- ⑤ 『アカデミックジャパニーズ』(共著) ジャパンタイムズ 2001年 127ページ

日本語の文法力、読解力などの受信型スキルを伸ばすだけでなく学習者自身が考え、その場の状況を考えながらコミュニケーションをとったり、発表したりする「発信型スキル」を伸ばすことを目標としたテキストである。

- ⑥ 『日本留学試験 実戦問題集 ー記述』(監修・共著) ジャパンタイムズ 2004年 125ページ

「日本留学試験 記述問題」のために「書く」練習を中心に構成されている。問題の題材には日常的なものから社会的なものまで広い範囲が含まれている。資料やフローチャートに独自の工夫をこらした。

- ⑦ 『日本留学試験 実戦問題集 ー聴読解』(監修・共著) ジャパンタイムズ 2004年

「日本留学試験 聴読解問題」のために「聴く・読む」練習を中心に構成されている。問題の題材には日常的なものから社会的なものまで広い範囲が含まれている。視覚資料を見ながら音声聞き質問に答えるという新しい形式の問題から構成されている。

- ⑧ 『日本留学試験 実戦問題集 ー読解』(監修・共著) ジャパンタイムズ 2004年

教材には日常的なものから社会的なものまで広い範囲が含まれている。第一部模擬問題、第二部トレーニング編から構成されている。

- ⑨ 大学生のための日本語ライティング(監修・共著) ジャパンタイムズ 2006年

大学で必須の「書く力」、論理的ライティング力を養成するためのテキストである。短文から段落構成、体験報告などの一般的な文章作成、そして資料を利用したレポートの書き方へと文章構成を段階的に学んでいく。

- ⑩ 『日本語能力試験 N1 文法対策』監修 高橋書店 2011年 160ページ

N1および旧試験1級の過去13回分(11年分)の試験を分析し、出題回数の多い順にまとめているので、重要なところから覚えられる。例文や説明に、言葉の自然なつながりを示す”コロケーション”をとり入れ「日本人が日頃よく使う表現」「試験によく出る表現」に厳選。複数ある「接続のしかた」は、よく使われる順に解説した。



- ⑪ 『日本語能力試験 N1 総合問題集』監修 高橋書店 2011年 208 ページ  
この問題集は 4 章に分かれている。1 章の模擬テストは、実際の試験と同じ形式と問題数で構成され、2 章～4 章は、分野ごと（言語知識、読解、聴解）の練習問題になっている。すべての問題に解説を付した。
- ⑫ 『新日本留学試験実践問題集 聴解・聴読解』監修 ジャパンタイムズ 2011年 160 ページ  
現代的な話題を盛り込んだ、新試験に合わせた前面改訂版。

ここでは、問題集の中から『大学生のための日本語ライティング』を取り上げ、問題集にも「ジェンダー意識」を盛り込んだ例を紹介したいと思う。



©ジャパンタイムズ

この問題集（テキスト）は、大学生活でのオーラルスキル（講義の聞き取りや討論、事務とのやりとりなど）の向上をめざした既刊『大学で学ぶための アカデミック・ジャパニーズ』の姉妹編である。大学の留学生を主な対象とした日本語ライティングのテキストで、論理的な日本語の文章を書くために必要な表現と構成方法を、具体的な課題を通して段階的に学ぶことを目的にしている。

全体は3つのレベルに分かれており、短文から段落の作成、体験報告・案内文・自己紹介文などの作文、そして資料を利用したレポートの書き方の演習が最終目標。大学で必要不可欠な「書く力」を養成する。下記はジェンダーの視点から執筆した一例である。

「引用してレポートを書く」には、出生率の変化（一人の女性が生む子供の数の変化）について考えるタスクを載せている。

伝えたいことが書けているか  
書いていることが途中で変わっていないか  
資料を効果的に使っているか  
表現やことばの使い方は適切か

少子化に対する意識調査では「結婚の良い点は何か」「子育ては大変なことより楽しいことの方がおおいはずだ」などの質問や考え方について意見を述べるようになっている。

最終的には「日本の人口構成の変化」「出生率の変化」「少子化の原因」「ライフスタイルの変化」「厚生労働省の少子化に関する意識調査」などを踏まえて、留学生自身がレポートを完成できるように導いている。

### 3. まとめ

日本語の教科書や問題集を監修・執筆するにあたり、日本社会の文化的側面として「ジェンダー意識の変容」「ジェンダーバイアス」などを直接的・間接的に取り上げることは可能であると考え、また拙著ではそれを実践してきた。

これらのささやかな試みが少しでも日本社会のジェンダー問題を考えるきっかけになれば幸いである。

(ささき みずえ・武蔵野大学名誉教授)